

# 登山月報

JMSCA

登山月報 第666号 令和6年9月15日発行



「冬の荒島岳を臨む」 撮影：福井山岳会

8月11日 みんなで山を考えよう!  
祝「山の日」  
全国「山の日」協議会  
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.666

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 「国際山岳平和祭」in 長岡 2024 報告 .....        | 2  |
| 第68回全国高等学校登山大会 .....                | 4  |
| Enjoy Climbing .....                | 6  |
| 巻機山の植生回復・景観保全活動に参加して .....          | 7  |
| 石川県山岳・SC協会自然保護委員会のSDGsの活動について ..... | 8  |
| 令和5年度事業報告 .....                     | 9  |
| JMSCA、寄贈図書、表紙のことば .....             | 11 |

## 「国際山岳平和祭」 in 長岡2024 報告

令和6(2024)年7月23日(火)～27日(土)の5日間で、アジア山岳連盟創立30周年記念事業「国際山岳平和祭」in 長岡2024を新潟県長岡市のホテルニューオオタニ長岡、弥彦村、弥彦神社、弥彦山、大平園地で開催しました。当初は令和4年の11月10日(木)の理事会で承認されましたが、紆余曲折があり、再度令和5年10月12日の理事会で30周年記念事業を行うことが決定され、12月12日に最初の会議がビデオで開催されました。このときはJMSCAのスタッフだけで開催され、実行委員会としてはJMSCA、新潟県山岳協会(JAC越後支部含む)、JAC本部の合同プロジェクトにする、メインのホテルを長岡市のホテルニューオオタニ長岡にするおよび12月19日に現地視察を行うことを決めた。翌令和6年1月5日に第1回合同実行委員会が開催され、令和6年7月23日の当日までに、委員会が18回、現地視察が4回行い準備された。

主催：アジア山岳連盟、アジア山岳連盟日本委員会

主管：公益社団法人日本山岳スポーツライミング協会、新潟県山岳協会

協力：公益社団法人日本山岳会、公益社団法人日本山岳会越後支部、日本勤労者山岳連盟、公益社団法人日本山岳ガイド協会、日本ヒマラヤ協会、弥彦山岳会、長岡市立深沢小学校

協賛：株式会社山と溪谷社、株式会社モンベル、株式会社ゴールドウイン、吉乃川株式会社、一般社団法人長岡観光コンベンション協会

後援：新潟県、新潟県長岡市、弥彦村

※JAC地元担当者により新潟県と新潟県長岡市より補助金を後援いただきました。

### ■7月23日 集合、ハローパーティー

ホテルニューオオタニ長岡に集合し、19時よりハローパーティー開催。13か国18団体の当初72名のエントリーでしたが、最終的に62名が各々集合です。韓国のリー会長のグループは、韓国から新潟空港に到着してマイクロバスで、他の人たちは成田空港や羽田空港に到着してお迎えの人たちが空港から東京駅まで案内して上越新幹線に乗せてホテルまで、ホテルの2階の特別受付で受付して参加費を受け取ります。

参加費は、会議出席者が\$1,000、付き添い者が\$800、子供は\$600としましたが、人により多少上下がありました。

ほとんどがクレジットカード支払いと思いましたが、ドル紙幣の現金が思ったより多くありました。

### 19時よりハローパーティー

アジア山岳連盟のメンバーが1年ぶりに会った喜びを交わすパーティーです。ノンアルコールの飲み物と軽い食事で2時間程度楽しく再会を喜びました。

### ■7月24日 アジア山岳連盟総会

10時より16時まで、アジア山岳連盟の総会が開催されました。この総会でJMSCAの会長が変わった事の報告を行いました。

アジア山岳連盟：37名、UIAA副会長：1名

日本勤労者山岳連盟：2名、JMSCA：3名

総会参加者43名



アジア山岳連盟総会 総会出席者43名



手作り「貝の織物」お土産



座禅



各国別にステージで挨拶



竜神太鼓演奏



高頭祭 全体写真



鏡開きより約200人でメインの祝賀会スタート



たいまつ行進



祝賀会最高の盛り上がり

総会中は、会議出席者以外の方は長岡市を見学に行きました。へぎそばを食べて、吉乃川酒造できき酒などを楽しみました。

#### 19時より歓迎パーティー

皆さん衣装を着替えて全員が参加しました。

アルコールが入ると陽気になりガラッと雰囲気が変わり歌を歌い楽しみました。

#### ■ 7月25日 高頭祭、新潟県登山祭、たいまつ登山

9時よりレクチャーミーティングを行い、たいまつ登山は危ないところもあるので歩く自身のない人は見学をすることを伝えましたが全員が参加するとの強い意志でした。

14:30 高頭祭

17:00 新潟県登山祭、たいまつ登山

下山の道迷いがあったり、お祭りの人込みで迷子になったりもありましたが、たいまつ登山の出発時には、

皆さん順序良く、1人の遅れもなく整然と行進を行いました。

これには地元の人も称賛していました。

#### ■ 7月26日 30周年記念式典および祝賀会

午前中座禅を行い、午後からメインイベントです。

式典ホールにて、表彰等を行い、長岡市立深沢小学校の竜神太鼓が演奏されました。

式典終了30分後より祝賀会を開始しました。直前まで席順に苦労しましたが、始まりアルコールが入れば山仲間どうし盛り上がり無事終了しました。

#### ■ 7月27日 朝食後解散

準備の過程において、アジアの国々から来日される場合の多くはVISAが必要になります。最近は各国の日本大使館は厳しくなっているらしくVISA発給に至らない場合もあり、参加者が少し減りました。

(蛭田伸一)

# 第68回全国高等学校登山大会

令和6年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第68回全国高等学校登山大会は8月2日(金)～6日(火祝)の日程で、福岡県添田町を会場として英彦山山系を舞台に開催された。

主管する福岡県では開催に先立つ3年前から、福岡県山岳・スポーツライミング連盟が寺崎会長を筆頭に九州の霊峰を存分に味わうことができるよう、コースや運営に気を配って準備を進めていった。また英彦山神宮は上宮の修復工事のため登山道の通行止め区間があるが、今大会のコースについて特段の配慮をいただき、無事に登山行動をすることができた。

熱中症警戒アラートが連日全国各地で発表される中で大会開催のため、コース隊では先頭、後尾の役員がWBGT計を所持して現地の状況を確認しながら行動した。また、落雷による事故を未然に防止するため、本部においてもレーダー画面等で雲や発雷を常時監視し、行動隊もストライクアラートを所持して探知に努めるなどの対応をとった。

開会式は添田町のそえだ公民館オークホールを会場として8月2日に開催された。式典に先立ち筑紫丘高等学校ギターアンサンブル部による歓迎アトラクションが行なわれた。同校のメンバーの中から今大会の歓迎演奏のための選抜アンサンブルが編成され、会場は地域屈指の同校の美しい演奏に包まれた。各都道府県の高体連旗を掲揚するスペースに苦心したため、出場校紹介の際に舞台上のスクリーンに映し出す演出を試みた。

開会式後は隊編成のちすぐに幕営地に移動し、英彦



開会式 蛭田会長

山青年の家にて諸審査を開始した。審査が終了してのちコース隊編成、引継ぎ式、設営審査・炊事審査と進んでいった。英彦山上部の標高800mの幕営地は風が通れば幾分涼しく、日射で地温は上昇していたものの平野部よりは過ごしやすい状況であった。

8月3日はやはり時間とともに気温が上昇し、体調不良から離脱を余儀なくされるチームが出てきた。水分補給などの対応を事前にアナウンスして予防に努めてはいたものの、睡眠不足などの個々の事情もあり致し方ない場面であった。また、岩稜帯での転倒により

プログラム表紙、  
英彦山サコッシュ



閉会式 男子表彰



B隊優勝 長崎北陽台

負傷し、搬送される事案も発生した。

8月4日は前日の離脱状況にかんがみ、男子A隊はサブザック行動に切り替え、女子B隊はコースの前半部分をカットして短縮するという安全策をとった。体力による成績差は出にくくなってしまうが、安全登山の推進という本大会の大目標から必要な判断であろう。無事に下山後は幕営地にて予定通りの設営・炊事のはずであった。しかし、発雷を伴った雲が大会山域に向かって接近する兆候が判明し、落雷、降水が懸念される中で屋外での幕営を行うよりは安全策をとって荒天対策を実施することとした。青年の家館内で就寝することとなった。結果的に雷雲は英彦山をすり抜けていき、心配は杞憂に終わったが、全国から集まった大きな大会では最悪を想定した慎重な運営が求められており、今後の判断の参考となるものである。

8月5日は長駈縦走にて大分県との県境を歩き宝珠山に下山するルートで、途中から監督と合流してパーティー行動にて九州の山を九州の大自然を味わってもらうことをめざした。インターハイの登山行動では選手と監督と一緒に歩く機会が少なく、思い出作りができる山行となった。

8月6日の閉会式には4日間にわたる大会を無事に終え、宿舎で疲れを癒したメンバーが再びオークホールに集結し、健闘したパーティーが表彰の栄冠を受けた。感染症対策や会場の都合などで短縮、省略を余儀



A隊



A隊優勝 旭川東

なくされていた引継ぎや感謝状授与などのセレモニーも元通りに執り行うことができ、緞帳が降り満場の拍手と感動のなか、福岡県での大会は閉幕を迎えた。

登山は、気象条件その他の自然環境の影響を受ける野外活動である。その中で自分たちの登山を作り上げていく創造的営為が求められる。全国大会に出場して上位入賞を目指すことも目的の一つではある。しかし、大会参加のための準備や大会での全国の仲間との交流を通じて、安全登山を生涯にわたって行うことができる力量を形成すること真の目的である。

無事に大会を終えることができたことはひとえに福岡県をはじめ九州の皆さまのご尽力の賜物である。改めて御礼を申し上げたい。

((公財) 全国高等学校体育連盟登山専門部

JMSCA 理事 前田善彦)



隊行動B隊



幕営地

上野 はるか

## ● 12月31日～1月2日

## 北穂小屋～長谷川ピーク～大キレット最低コロ

12月31日、平和な避難小屋で目覚める。なんという至福。他パーティが来てもおかしくないが、誰も来ない。この小屋はあまり広くないので、あと2人組が1組でも来たらテントは張れない。だから誰かが来ても困るのだが、この超非日常を誰かと共有したくもある、そんな気持ちでたまに灰色の窓の外を見る。

冬の避難小屋の中では寒さ対策のためにテントを張るのが普通である。小屋の入り口(ドアはなく、1メートル四方くらいの窓)を出てすぐにカリカリの雪の斜面になっているので、用を足すのにいちいち外にはでない。もう私もすっかり慣れっこで、アルファ米のジップロック袋に用を足す。テントでも外が強風だったり降雪中だったりすると中です。もちろん私には男性のように便利なジョウロは付いていないので、シリコン製の擬似ジョウロ(?)を使う必要がある。

31日は一冊だけ持ってきた薄い文庫本を読んだり、記録を書いたり、装備を乾かししたりして過ごした。つくづく、1リットルプラティパスを使ったお湯アイロンによる濡れ物乾燥の威力はすごいなと思う。この「お湯ティパス」の中の熱湯を冷めたら換えるを繰り返して、全ての湿った装備たちを次々と乾かしていった。小屋の中のテント外で行っているので結露の逆襲の心配もない。夜はもちろん紅白をラジオで聞いた。この小屋を起点に、滝谷でクライミングする計画だったが、翌日も強風の予定だったので、槍ヶ岳まで先を急ぐべきだという結論になった。

1月1日、槍に向けてはやく出発したいが、風が恐ろしく強い。北穂小屋から出てすぐにキレットに向かって急降下するので、あまりに強いとやばい。数時間様子を見て、意を決して11時頃に小屋を出た。が、最初の1時間くらいは出てきて失敗だったか、と思うくらいの風だった。結構な斜度の雪壁を強風の中ノーロープでクライムダウンする。ガスで先もよく見えない。左右のアックス、左右のアイゼン、4つのポイントに全集中して一手一手慎重に体を動かす。たまに脛くらいまで潜る安定した雪が現れ、ふくらはぎをレストできるのが幸いだ。

雪壁のクライムダウンが終わって、岩が現れたしたのでロープを出す。が、風でロープが真横に流されてうまく捌けない。こういう所でロープが絡まったりどこかに引っかかりたりして致命的なミスになりそうだなと思いながら、焦っても状況が良くなることはない。丁寧にロープを捌く。時間はかかるが確実にロープを使って下降を続ける。

やっとのことでA沢のコルに着いた。まだまだ先に進みたいが、もう16時で夕暮れの気配だ。長谷川ピークへ向かうあたりで、山が揺れた。すぐに大きな地震が起きたと分かった。長谷川ピークをトラバース気味に越えていくこと



北穂小屋にてウェア修理

も考えていたが、この地震が積もった雪にどう影響するか分からなかった。稜線通しに登って行くことにし、長谷川ピークの先まで進んだ。遠くからあの辺の鞍部が良さそうだなと目星をつけていた箇所に着くと、想像よりも広くて嬉しかった。2人とも、今日はここで、と意見が一致したが、相方が「今日はここで、槍の西稜もなしで下山したほうが良いと思う。」と言った。「今判断する??」と思った。

1月2日も強風と雪粒の攻撃を受けながら南岳小屋へ向かう。南岳への登りも梯子や鎖が連続していて視界も悪いのでルートファインディングが大変だったが、登りなので昨日の下降より全然気分がマシである。屋前に南岳の避難小屋に着いた。小屋に入って一息着くと、ザックやハードシェルがびしょり濡れていることに気づいた。かなり水分を含んだ風雪だったようだ。小屋には先客パーティが2組いた。昨日からこの小屋に来て泊まって、出発時間を見計らっているようだ。

この日は南岳小屋を越えて槍ヶ岳山荘に行く予定だったが、風がなかなか弱まってくれない。14時過ぎに少し弱くなったので、実際はもう一つ駒は進められたと思うが結局南岳小屋泊とした。この時点で1月4日の降雪予報が私たちを悩ませており、1月3日に槍の西稜のクライミングは無しで、出来る限り北鎌尾根を降りないと危ないのでは、という考えになっていた。私たちの最終下山日は1月6日に設定していた。

でも今全てを終えて思うと、この日に最後はヘッドライトでの行動になるが槍ヶ岳山荘まで行き、翌日1月3日に槍ヶ岳の西稜を登ってから北鎌尾根を進める限り下降する、ということができたのではと悔やまれる。この時の私には加藤文太郎や松濤明の命を奪った悪天の冬の北鎌尾根の下降が、すごく恐ろしいものに感じられていた。でも、なんでも結果がわかってからは何とでも言えるのである。だから天気とか雪の状態とか不確定要素がある時の判断と、結果を知ってから判断が違ふのは当たり前で、結果論には意味がない。それでも、自分の心は自分が一番よくわかるので、あの時の判断には自分の弱さがあったことも自覚している。複合的な不確定要素がある中でも、それら一つ一つについてよく考えて、ここまではいける、こうなったら絶対無理、その間のここで最終判断すれば良い、と丁寧に結論を出すことはしなかったと言える。具体的には自分の体力と登攀力への不安が、槍ヶ岳西稜を遠ざけてしまった。西稜はパスした方が良いのではという相方の意見に、いや行ってみよう、と言えなかった。でも逆に、これらの力がもう少し上がれば、同じ条件下に置かれた時にもっと強気な判断ができると思う。結果論には意味がないが、その判断に弱気が含まれていなかったのか、よくよく自分の心に問うてみるのは次回より良い登山のために大事な事だ。

## 巻機山の植生回復・景観保全活動に参加して

巻機山は上越国境の谷川岳北方にある標高1967 mの美しい山である。その山頂は10 m を超す積雪の影響で大きな樹木の生育ができず伸びやかな雪田草原となり独特の景観を作っている。その美しい景観を求め、また日本百名山にもなっていることから多くの登山者が訪れる。1960年代頃より踏み荒らしによる植生の荒廃が顕著になり、この状況を止めたいと若者が立ち上がり1977年より登山道を含めた高山植生の復元による景観保全・自然保護活動がボランティアの手で始められた。

この活動は、東京農業大学農学部造園学科・風景計画学研究室(当時)が実働部隊になり、財団法人日本ナショナルトラストが事務局となり、活動の初期は農大生とそのOB が活動の主役を担ってきたが、中期からは市民ボランティアが活動に加わった。ここ10年余りは熟成期の活動で作業規模は縮小されているが、毎年農大学生、OB ボランティア、ナショナルトラスト会員、市民ボランティアで作業が続いている。

私は1992年から一般参加者として毎年、8月下旬に1泊2日の短期間であるが参加してきた(活動自体は2泊3日以上)。ここでは少しばかり内容を紹介したい。なお、私は一参加者なので正確性に欠ける部分があることはご承知願いたい。

巻機山の植生回復・景観保全活動の基本は、付近の草原から草の種を採り、裸地化したところに種を蒔き復元させる作業である。種と同時に網目状の緑化マットを敷き、保水と表面土壌の固定をはかる。これにより発芽が期待でき、草原への復活をはかろうとするものである。

植生復元は巻機山8合目から山頂にかけて行われ、9合目以上の裸地は30年かけほぼ回復されたが、8合から9合にかけてのガレ場は、10年以上毎年やってもわずかな回復しか見えない。

また、表土が流された裸地部分には植生の定着が困難なため、部分的ではあるが客土を行っている。客土といっても、山腹に竜王の池という池塘があり、ここは登山道から流れ込む土砂で徐々に埋まる。埋まると繁茂する植物のミヤマホタルイは景観的には池の形を残したいので好ましくない。数年置きにこれらを除去するが、その植物の根に付いた土を、裸地部分に運ぶ。土の中には多様な種子が入っているので、種子が発芽、裸地が減るという作用である。

登山道整備については、基幹の木道は新潟県の事業で建設されたが、細かな補修、例えば階段段差を小さく



する補助的な段差材の設置や、ぬかるみ、水たまり部分への木片設置などを行い、登山者の踏み外しによる植生破壊への防止を行っている。

この巻機山の活動については、所属山岳会の会員や東京都山岳連盟自然保護委員会の委員、JMSCA自然保護指導員に呼びかけ、延べ80人近くの仲間が参加してくれた。参加者に植生復元や登山道整備にかかる知恵、労力、時間について体験してもらい、その体験の思いが広がれば自然保護の思想が広まることになる。私もこの思いで、年に2日間の事だが毎年巻機山に向かっている。



裸地になった泥炭層に種まき  
1993年



植生の回復過程  
1995年頃



植生の回復が進まないガレ場  
2022年



ミヤマホタルイの除去作業  
2024年

(JMSCA自然保護委員・東京都山岳連盟自然保護委員会  
副委員長 岡田博行)

# 石川県山岳・SC協会自然保護委員会のSDGsの活動について

石川県山岳・スポーツクライミング協会は、昭和41年(1966)30団体600人を以て「石川県山岳協会」が設立されたことに始まる。その後順調に推移し、協会創立20周年と第46回国民体育大会(石川国体)を記念し、加盟団体が山域ごとに分担し県内133座の登山道・歴史・伝説などを紹介する『石川の山』を平成3年(1989)に発刊するなど旺盛に活動してきた。しかし近年、高齢化や屋内でのクライミング競技に対する異論などで脱退する団体が増え、現在僅か6団体と個人会員数名にまで減少し、壊滅の危機に瀕している。

当協会は日本三霊山に数えられる国立公園の白山を抱えているが、幸いなことに石川県立の白山自然保護センターが設置されており、白山国立公園や県立自然公園の保護活動をサポートし、白山の深い文化や歴史と自然保護に対する理解を深めるためのビジターセンターや展示館・観察舎も設けられている。白山の自然保護に関してはこの白山自然保護センターに委ねているのが現状である。

JMSCAが唱えるSDGsの基本方針の取り組みにも、弱小化した本協会のみで事業を推進する力量は乏しく、社団法人県民会議が運営する夕日寺健民自然園に協力している。ここには里山の自然環境を保全・活用し、多様な生き物に触れあえる場として里山ふるさと館や体験工房が整備されている。健民自然園における令和6年度の里山学習塾(全23回)は、里山の厄介者とされる竹の話と竹細工や里山のキノコ探し・珍しい化石を探してみよう・ザリガニやカダヤシなど外来生

物を学ぼう…などのテーマで開催され、当協会自然保護委員会からコーディネーターを派遣している。

また、地元紙北國新聞文化センターの「駅からウォーキング」には、当協会OBの自然保護指導員が協力している。電車や路線バスなど公共交通をアクセスに利用し、加賀藩が参勤交代で江戸を往復した旧北國街道や殿様街道、倶利伽羅峠の源平合戦で敗走する平家軍を追った木曾街道、能登の総持寺と永光寺を結ぶ峨山道など寺社参詣の山越え道を歩き、峠や古道を守り後世に伝える活動を行っている。SDGs活動の一環として、継続していきたいと思っている。

ウォーキングにおいては、国土地理院の地形図に表記されている水準点を現地確認し、三角点の標高を測量する大切な基準点であることを知らしめ、国土の立体的な自然を認識することに努めている。石川県では令和6年1月1日の能登半島地震により、地形図作成の元となる水準点や三角点など基準点が変動し、国土地理院の成果閲覧サービスに支障を来し、基準点の機能が喪失する「成果異常」の状況により、一時測量成果の公表が停止されていた。その後、改測を行うなどの対応を行い、順次測量成果は改定・公表されているが、一部水準点は引き続き測量成果の公表が停止されていることにご留意頂きたい。

大きな地殻変動が確認され、国土の自然環境に甚大な被害が発生したことをしっかり記憶に留めていきたい。

(石川県山岳・スポーツクライミング協会  
理事長・自然保護委員長 米田 正明)



竹の開花周期は60～120年と言われ昔は不吉な前兆と言われていた(2024年)

夕日寺健民自然園でツリークライミングを行い樹木と親しんだ(2023年)



## 令和5年度事業報告

### I 概要

令和5年度は5月に新型コロナが5類に移行したため、ほぼコロナ前の活動量になったと言える。登山では全日本登山大会が5年ぶりに千葉県で開催され、SC競技は例年実施の8競技大会のほか、4月に八王子市でボルダーワールドカップが開催された。SC競技選手は、海外においても目覚ましい活躍を見せ、パリオリンピック2024に3名の出場が決定している。山岳スキーは2026年の冬季オリンピックを目指し、海外での選手強化に励んできた。

一方、年度当初に発覚した前年度の大幅赤字への対応として、理事は当然のことながら正会員を含め年間を通して各種の対策を行ってきた。

その一つは原因究明と責任追及であり、もう一つは厳しくなった財務状況を踏まえた運営面の見直しを行った。

原因究明については、8月から赤字検証委員会を開催し、10月に報告書が提出された。更に検証報告を基に監事による責任追及に関する報告書が3月5日に提出された。

運営面については、4月から6月は従前のやり方によるSC競技会運営で赤字が発生したが、その後は業務執行を予算内に収まるよう努めた。また、基金制度を創設し、財務状況の改善を図った。

### II 事業総括

#### (1) 競技系

スポーツクライミング競技では、前述の様に4月～6月に行われたワールドカップのほか4大会は前年の流れをそのまま引き継ぎ、支出オーバーとなった。しかしながら、その後の大会に関しては引き締めがしっかりとされ、一年を通して予定されていた全ての大会を開催できた。選手強化においても交付された補助金に応じ取り組んでいる。

こうした中、令和7年4月の協賛会社等との新契約成立に向けて、早いうちの対応が求められている。

山岳スキー競技は、立ち上がりに時間がかかったが、補助金を活用して積極的に海外で強化合宿を行うなどオリンピックを目指し力が入ってきている。

#### (2) 登山系

国際・AC委員会が少しずつではあるが勢いを取り戻す様子が見られ、海外登山奨励金ばかりでなく、ウインタークライマーズミートなど冬季登攀についても全国のクライマーを集めて行っている。若いというより中堅のクライマーが率先して引っ張っている。

自然保護や遭対指導もランクを上げた講習会など少ない予算でも事業効果が上がるよう工夫してきた。

また、財政面で厳しくなっていることから、登山系財源の柱である山岳共済会と登山系各委員会との事業における密接な連携を図ることにより、一般登山者にも加入していただき、財政の改善へとつなげて行こうとする動きが強まっている。

#### (3) 総務・独立系

表彰については、日本登山界に関係する表彰が規定通り

にはいなくなっていることから、見直すこととなっていたが、赤字問題対応が主となったことで、次年度へ先送りとなった。

AD／倫理研修は、競技団体として必須事項であり、他の委員会と共同で行っているものの、現在の2名のガバナンス委員会委員には大きな負担がかかっている。

月報／HPはJMSCAの顔として常に新鮮な情報を提供できるよう努めてきた。

また、JMSCAと多くの皆さまを結びつけるシステムとして準備されてきたJMSCAフレンドの会員募集が開始となった。

### III 組織運営及び財政の確立

#### (1) 運営

赤字問題の発覚後、原因究明と責任追及に終始してきたが、その間に組織の在り方や本来為すべきことは何かということを検討してきた年度であった。その根拠となる「組織管理運営規程」の見直し開始し、現在、道半ばとなっていることから早期に取りまとめていく必要がある。

また、SCの主要8競技会開催をマネジメントする者を初めて業務委託とする試みを行い、一定の成果を上げることができたが、次年度も同様に効果が期待できるか注視している。

#### (2) ガバナンス

例年、ガバナンスコードについて上部団体から指導があり、これを徹底していくための研修をすべきであったが、赤字問題対応に終始したことで、疎かになったことは否めず、次年度に向けて徹底していくこととしている。

#### (3) 財政

赤字問題発覚後、財務管理にはいくつかの新しい取り組みを導入した。

その一つが高額の予算執行を事前に整理して内部で共有する執行伺い制度の導入である。また、毎月の財務委員会においては、予算執行状況やキャッシュフローの様子を把握し、事態の悪化を防いできた。

更に基金制度の導入と関係各位のご協力により、債務超過の事態を避けることができた。

#### (4) 組織基盤強化

赤字問題に関係し年度を通じて組織体制が揺らいできたが、年度最終版によりやく区切りがつき、次年度への見通しがついてきた。

事務局体制についても同様であり、年度後半に新たな職員の雇用により、新体制がスタートした。

今後は、1日も早く加盟団体、理事、委員会、事務局が一体となり、強固な組織基盤ができるよう努めていく。

#### (5) 会員状況

会員の状況は以下の通りである。(2024年4月1日現在)

(ア) 正会員 71名(加盟団体48名・学識経験者23名)

(イ) 賛助会員 団体 9社

(ウ) 賛助会員 個人85名(入会1名、退会3名、逝去1名)

賛助会員は100名を切ると税額控除団体から外れることになるので、会員の確保に最大限努めなくてはならない。

(6) 収支報告概要

(ア) 貸借対照表 (Page1)

正味財産は、20百万円となり、5百万円減っている。しかし、全国の正会員、岳連、顧問や理事に依頼し、第1期募集の基金が27百万円余集まり、このことにより債務超過を回避できた。また、銀行だけでなく、篤志家からの50百万円の借入が資金繰り改善に大きく貢献した。

(イ) 正味財産増減計算書 (Page2-4)

令和5年度の収入は519百万円(対前年度比109%)、支出は557百万円(対前年度比97%)となり、全体としては事業費の旅費交通費が50百万円支出減となるなどしたが約38百万円の最終赤字となった。これは前年度のままの運営方法で4月から6月に実施したSC競技大会による支出が大きく影響している。

(7) 経営上の課題と対策

2019年の世界選手権の赤字の後、予算執行管理に関する運用規律を策定した。しかしながら2022年度は十分に機能せず、大きな赤字を生んだ。

この反省に立ち、財政再建委員会を設置することとしているが、まずは2023年度の後半に財政再建計画作成準備委員会を立ち上げ、財政再建骨子案を策定するなどの対応を行っている。

今後の定時総会を踏まえ財政再建委員会を本格稼働させて、財政再建を進めていく。

\*

以下、課題と対策になる。

課題：JMSCAの事業全体が収入に見合った規模を超えている

対策：実施する事業を見直す。実施事業を優先順位の高いものに限定し、集中と選択を行っている。

課題：経費を節減するチェック機能が脆弱

対策：一定額以上の金額を発注する際等は必ず、

- 1) 当該発注が必要である事、
- 2) 見積もりを取得し発注金額が適正である事、

について事務局または財務委員会の承認を得ることを義務付けるプロセスを導入した。

課題：予算を管理する体制が脆弱

対策：財務委員会で毎月の各委員会予算執行状況を共有し、執行実態を確認し議論することより、理事会による管理機能を働かせる。また、各委員会において実施する重要事業(注1)の収支結果を理事会で共有し、理事会において適正な予算執行がなされたか否かのチェック機能を働かせる。

(注1) 重要事業とは、競技大会など予算規模が大きい(1,000万円以上)個別の事業のことをいう。

課題：事業資金(キャッシュフロー)の確保

対策：キャッシュフローの中期的展望をモニタリングしつつ、複数の資金調達手段を確保しながら、必要に応じて資金調達していく。

以上

令和5年度収支決算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

【貸借対照表】(単位: 円)

| 科 目            | 当年度末<br>(R6/3/31) | 前年度末<br>(R5/3/31) | 増 減           |
|----------------|-------------------|-------------------|---------------|
| I 資産の部         |                   |                   |               |
| 1 流動資産         |                   |                   |               |
| 現金・預貯金・郵便振替    | 87,786,997        | 20,248,313        | 67,538,684    |
| 未収金            | 47,215,122        | 56,383,081        | △ 9,167,959   |
| 立替金            | 2,018,306         | 1,821,421         | 196,885       |
| 前払費用           | 1,996,270         | 4,483,200         | △ 2,486,930   |
| 仮払金            | 347,862           | 351,516           | △ 3,654       |
| 流動資産合計         | 139,364,557       | 83,287,531        | 56,077,026    |
| 2 固定資産         |                   |                   |               |
| (1)基本財産        |                   |                   |               |
| 基本財産定期預金       | 30,000,000        | 30,000,000        | 0             |
| 基本財産合計         | 30,000,000        | 30,000,000        | 0             |
| (2)特定資産        |                   |                   |               |
| 国民スポーツ登山振興基金   | 5,494,487         | 5,494,487         | 0             |
| 退職給付引当資産       | 3,380,500         | 3,594,098         | △ 213,598     |
| 創立60周年記念事業積立資産 | 1,213,925         | 1,213,925         | 0             |
| 財政基盤確保資金       | 0                 | 6,000,000         | △ 6,000,000   |
| ソフトウェア         | 15,624,399        | 10,502,250        | 5,122,149     |
| 特定資産合計         | 25,713,311        | 26,804,760        | △ 1,091,449   |
| (3)その他固定資産     |                   |                   |               |
| 什器備品           | 871,613           | 976,206           | △ 104,593     |
| ソフトウェア         | 5,663,168         | 7,303,167         | △ 1,639,999   |
| 商標権            | 1,028,330         | 1,202,246         | △ 173,916     |
| 保証金            | 1,350,000         | 1,350,000         | 0             |
| その他固定資産合計      | 8,913,111         | 10,831,619        | △ 1,918,508   |
| 固定資産合計         | 64,626,422        | 67,636,379        | △ 3,009,957   |
| 資産合計           | 203,990,979       | 150,923,910       | 53,067,069    |
| II 負債の部        |                   |                   |               |
| 1 流動負債         |                   |                   |               |
| 未払金            | 14,296,838        | 575,090           | 13,721,748    |
| 未払費用           | 29,524,432        | 24,492,935        | 5,031,497     |
| 前受金            | 616,000           | 3,434,167         | △ 2,818,167   |
| 預り金            | 1,903,066         | 1,588,218         | 314,848       |
| 仮受金            | 31,540            | 12,091            | 19,449        |
| 短期借入金          | 130,000,000       | 80,000,000        | 50,000,000    |
| 未払消費税等         | 1,685,600         | 2,274,400         | △ 588,800     |
| 賞与引当金          | 2,207,000         | 3,176,000         | △ 969,000     |
| 流動負債合計         | 180,264,476       | 115,552,901       | 64,711,575    |
| 2 固定負債         |                   |                   |               |
| 退職給付引当金        | 3,380,500         | 9,589,500         | △ 6,209,000   |
| 固定負債合計         | 3,380,500         | 9,589,500         | △ 6,209,000   |
| 負債合計           | 183,644,976       | 125,142,401       | 58,502,575    |
| III 正味財産の部     |                   |                   |               |
| 1 基金           |                   |                   |               |
| 基金             | 27,400,000        | 0                 | 27,400,000    |
| (うち基本財産への充当額)  | (0)               | (0)               | (0)           |
| (うち特定資産への充当額)  | (0)               | (0)               | (0)           |
| 2 指定正味財産       |                   |                   |               |
| 受取補助金等         | 15,624,399        | 10,502,250        | 5,122,149     |
| 受取寄附金等         | 31,213,925        | 31,213,925        | 0             |
| 指定正味財産合計       | 46,838,324        | 41,716,175        | 5,122,149     |
| (うち基本財産への充当額)  | (30,000,000)      | (30,000,000)      | (0)           |
| (うち特定資産への充当額)  | (16,838,324)      | (11,716,175)      | (5,122,149)   |
| 3 一般正味財産       |                   |                   |               |
| 一般正味財産         | △ 53,892,321      | △ 15,934,666      | △ 37,957,655  |
| (うち基本財産への充当額)  | (0)               | (0)               | (0)           |
| (うち特定資産への充当額)  | (5,494,487)       | (11,494,487)      | (△ 6,000,000) |
| 正味財産合計         | 20,346,003        | 25,781,509        | △ 5,435,506   |
| 負債及び正味財産合計     | 203,990,979       | 150,923,910       | 53,067,069    |

【正味財産増減計算書】(単位: 円)

| 科 目                    | 当年度<br>(R5/4-R6/3) | 前年度<br>(R4/4-R5/3) | 増 減          |
|------------------------|--------------------|--------------------|--------------|
| I 一般正味財産増減の部           |                    |                    |              |
| 1 経常増減の部               |                    |                    |              |
| (1)経常収益                |                    |                    |              |
| 基本財産運用益                | 600                | 600                | 0            |
| 基本財産受取利息               | 600                | 600                | 0            |
| 特定資産運用益                | 160                | 180                | △ 20         |
| 特定資産受取利息               | 160                | 180                | △ 20         |
| 受取会費                   | 11,223,000         | 11,376,000         | △ 153,000    |
| 正会員受取会費                | 2,803,000          | 2,550,000          | 253,000      |
| 加盟分担金受取会費              | 6,944,000          | 7,280,000          | △ 336,000    |
| 賛助会員受取会費(個人・団体)        | 1,476,000          | 1,546,000          | △ 70,000     |
| 事業収益                   | 250,257,109        | 237,524,082        | 12,733,027   |
| 共済会委託事業収入              | 30,000,000         | 30,000,000         | 0            |
| 登録料収入                  | 13,880,000         | 13,495,400         | 384,600      |
| 競技選手登録料収入              | 11,850,000         | 11,794,000         | 56,000       |
| 諸登録料収入                 | 2,030,000          | 1,701,400          | 328,600      |
| 参加者負担金収入               | 5,643,210          | 4,894,156          | 749,054      |
| 講習会参加料収入               | 3,854,190          | 4,221,156          | △ 366,966    |
| 諸参加料収入                 | 1,789,020          | 673,000            | 1,116,020    |
| 協賛金収入                  | 153,605,000        | 152,326,699        | 1,278,301    |
| 広告料収入                  | 3,141,686          | 3,980,452          | △ 838,766    |
| 競技会収入                  | 39,840,784         | 29,962,794         | 9,877,990    |
| 選手参加料収入                | 28,447,220         | 24,074,600         | 4,372,620    |
| 入場料収入                  | 7,738,456          | 3,281,203          | 4,457,253    |
| 諸収入                    | 3,655,108          | 2,606,991          | 1,048,117    |
| その他事業収益                | 4,146,429          | 2,864,581          | 1,281,848    |
| 受取委託金                  | 31,325,837         | 42,321,245         | △ 10,995,408 |
| スポーツ庁委託金(JOOC経由)       | 7,091,926          | 12,509,692         | △ 5,417,766  |
| 日本スポーツ振興センター委託金(アスリート) | 24,233,911         | 29,811,553         | △ 5,577,642  |
| 受取補助金等                 | 221,745,918        | 177,282,298        | 44,463,620   |
| 日本オリンピック委員会助成金         | 99,094,000         | 105,251,942        | △ 6,157,942  |

|                       |             |             |              |
|-----------------------|-------------|-------------|--------------|
| 日本オリンピック委員会交付金        | 11,780,395  | 13,203,000  | △ 1,422,605  |
| 国民体育大会補助金             | 7,924,505   | 7,280,284   | 644,221      |
| 日本スポーツ協会助成金           | 1,210,000   | 6,727,164   | △ 5,517,164  |
| 日本スポーツ振興センター助成金(振興くじ) | 32,445,000  | 3,500,000   | 28,945,000   |
| 日本スポーツ振興センター助成金(振興基金) | 9,600,000   | 9,600,000   | 0            |
| 日本スポーツ振興センター助成金(安全登山) | 1,800,000   | 1,800,000   | 0            |
| 日本スポーツ振興センター助成金(組織基金) | 25,191,851  | 23,206,750  | 1,985,101    |
| 自治体補助金ほか              | 32,700,167  | 6,713,158   | 25,987,009   |
| 受取負担金                 | 1,000,000   | 8,000,000   | △ 7,000,000  |
| 受取負担金等                | 1,000,000   | 8,000,000   | △ 7,000,000  |
| 受取寄附金等                | 3,040,000   | 60,000      | 2,980,000    |
| 受取寄附金                 | 3,040,000   | 60,000      | 2,980,000    |
| 雑収益                   | 143,548     | 484         | 143,064      |
| 受取利息                  | 548         | 484         | 64           |
| 雑収入                   | 143,000     | 0           | 143,000      |
| 経常収益計                 | 518,736,172 | 476,564,889 | 42,171,283   |
| ②経常費用                 |             |             |              |
| 事業費                   | 520,578,302 | 537,798,294 | △ 17,219,992 |
| 給料手当                  | 28,927,587  | 28,220,390  | 707,197      |
| 臨時雇賃金                 | 10,460,100  | 10,946,592  | △ 486,492    |
| 通勤費                   | 1,410,229   | 1,253,610   | 156,619      |
| 退職給付費用                | 1,171,000   | 991,000     | 180,000      |
| 賞与引当金繰入               | 1,981,000   | 2,848,000   | △ 867,000    |
| 福利厚生費                 | 4,779,649   | 4,405,016   | 374,633      |
| 会議費                   | 668,582     | 1,343,957   | △ 675,375    |
| 旅費交通費                 | 160,624,391 | 210,860,905 | △ 50,236,514 |
| 通信運搬費                 | 7,964,019   | 5,873,302   | 2,090,717    |
| 減価償却費                 | 4,204,507   | 756,109     | 3,448,398    |
| 消耗品費                  | 10,655,959  | 13,231,465  | △ 2,575,506  |
| 印刷製本費                 | 15,487,483  | 19,898,132  | △ 4,410,649  |
| 広告宣伝費                 | 6,989,366   | 2,535,996   | 4,453,370    |
| 光熱水料費                 | 193,623     | 223,328     | △ 29,705     |
| 賃借・リース料               | 18,624,341  | 21,496,638  | △ 2,872,297  |
| 保険料                   | 5,892,745   | 5,269,948   | 622,797      |
| 諸謝金                   | 41,102,915  | 32,678,569  | 8,424,346    |
| 大会施設費用                | 120,321,918 | 115,887,602 | 4,434,316    |
| 支払負担金                 | 4,745,830   | 1,120,000   | 3,625,830    |
| 支払助成金及び事業交付金          | 2,585,000   | 2,980,000   | △ 395,000    |
| 委託費                   | 46,019,719  | 33,819,813  | 12,199,906   |
| 租税公課                  | 5,718,326   | 5,378,831   | 339,495      |
| 参加登録料                 | 3,146,650   | 2,241,883   | 904,767      |
| 大会記念品費                | 502,280     | 562,070     | △ 59,790     |
| 大会賞金                  | 4,924,553   | 1,680,000   | 3,244,553    |
| 報奨・奨励金                | 1,050,000   | 1,880,000   | △ 830,000    |
| Ⅰ T 関連費               | 10,036,515  | 8,964,930   | 1,071,585    |
| 雑費                    | 390,015     | 450,208     | △ 60,193     |

|              |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 管理費          | 36,115,525   | 34,423,392   | 1,692,133    |
| 役員報酬         | 90,000       | 90,000       | 0            |
| 給料手当         | 3,214,174    | 3,135,596    | 78,578       |
| 通勤費          | 156,693      | 139,290      | 17,403       |
| 臨時雇賃金・支払派遣費  | 4,241,813    | 0            | 4,241,813    |
| 退職給付費用       | 135,000      | 115,000      | 20,000       |
| 賞与引当金繰入      | 226,000      | 328,000      | △ 102,000    |
| 福利厚生費        | 531,073      | 489,444      | 41,629       |
| 会議費          | 3,655,663    | 2,035,461    | 1,620,202    |
| 旅費交通費        | 5,604,979    | 11,293,855   | △ 5,688,876  |
| 通信運搬費        | 94,716       | 85,884       | 8,832        |
| 減価償却費        | 27,852       | 24,369       | 3,483        |
| 修繕費          | 0            | 735,515      | △ 735,515    |
| 消耗品費         | 109,670      | 366,677      | △ 257,007    |
| 印刷製本費        | 1,913,155    | 966,980      | 946,175      |
| 光熱水料費        | 21,516       | 24,820       | △ 3,304      |
| 賃借・リース料      | 701,102      | 766,050      | △ 64,948     |
| 支払会費         | 3,590,613    | 2,923,620    | 666,993      |
| 保険料          | 87,001       | 71,768       | 15,233       |
| 寄附金          | 0            | 100,000      | △ 100,000    |
| 租税公課         | 635,364      | 597,649      | 37,715       |
| 支払負担金及び還付金   | 3,700,900    | 3,772,600    | △ 71,700     |
| 交際費          | 89,395       | 71,300       | 18,095       |
| 支払利息         | 1,138,068    | 368,956      | 769,112      |
| 支払報酬         | 1,552,520    | 1,925,420    | △ 372,900    |
| 手数料          | 3,094,026    | 3,159,052    | △ 65,026     |
| Ⅰ T 関連費      | 300,974      | 182,863      | 118,111      |
| 雑費           | 1,203,258    | 653,223      | 550,035      |
| 経常費用計        | 556,693,827  | 572,221,686  | △ 15,527,859 |
| 当期経常増減額      | △ 37,957,655 | △ 95,656,797 | 57,699,142   |
| 2. 経常外増減の部   |              |              |              |
| 当期一般正味財産増減額  | △ 37,957,655 | △ 95,656,797 | 57,699,142   |
| 一般正味財産期首残高   | △ 15,934,666 | 79,722,131   | △ 95,656,797 |
| 一般正味財産期末残高   | △ 53,892,321 | △ 15,934,666 | △ 37,957,655 |
| Ⅱ 指定正味財産増減の部 |              |              |              |
| 受取補助金等       | 7,436,000    | 10,502,250   | △ 3,066,250  |
| 一般正味財産へ振替額   | 2,313,851    | 0            | 2,313,851    |
| 当期指定正味財産増減額  | 5,122,149    | 10,502,250   | △ 5,380,101  |
| 指定正味財産期首残高   | 41,716,175   | 31,213,925   | 10,502,250   |
| 指定正味財産期末残高   | 46,838,324   | 41,716,175   | 5,122,149    |
| Ⅲ 基金増減の部     |              |              |              |
| 基金           | 27,400,000   | 0            | 27,400,000   |
| 当期基金増減額      | 27,400,000   | 0            | 27,400,000   |
| 基金期首残高       | 0            | 0            | 0            |
| 基金期末残高       | 27,400,000   | 0            | 27,400,000   |
| Ⅳ 正味財産期末残高   | 20,346,003   | 25,781,509   | △ 5,435,506  |

# JMSCA 令和6年度 第7回 理事会報告

○日 時：令和6年8月8日(木)  
14：05—17：05

○場 所：J S O Sビル3 F 会議室3

○出席者：古賀・吉田各副会長、小野寺専務理事、赤尾・野村・町田各常務理事、小高・小田部・佐藤・島田(途中離席)・中島・中橋・西谷(途中から参加、離席)・畑中・濱田(途中から参加、離席)・樋口・平田・前田・望月各理事、以上19名  
佐久間監事、古屋監事、以上2名

○欠 席：蛭田会長(オリンピック)、栗田・杉本・安井理事

## 1. 開 会

## 2. 古賀副会長からの挨拶

議長が初めてですが、スムーズに進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 3. 会議成立状況報告

理事数開始時23名中17名出席  
(定款第33条、定足数＝12名(1/2超))  
監事数2名出席

## 4. 議長選出

古賀副会長が議長を務める(定款第32条)。

## 5. 議事録署名人

副会長及び監事(定款第34条)

## 6. 議 題(注. 審議順に記載)

## 議案第1号 議事録の承認について

(前回第6回の議事録について承認済)

賛成17名、反対0名、棄権0名

## 議案第2号 補正予算途中報告について

望月理事が画面から現状の説明をした。

補正予算の準備のための型式を送付し、8月8日に調査結果を報告し、9月12日に議決するような日程を想定している。

登山部：補正対象はない。

S C 部：補正予算は4委員会(強化、普及、国スポ、国際)が提出予定。

独立委員会：C C 委員会(減価償却は、純増)独立共通が提出予定

事務局：当初予算より多くなる。

上記補正予算の進捗状況について承認された。

賛成17名、反対0名、棄権0名

## 議案第3号 基金用途の確認について

赤尾事務局長が配布資料を基に、第1期基金2740万円を使用する理由を説明した。年度末仮に資金が不足した場合、当該基金を運転資金として速やかに充当できるように使用承認を得たい。以下のように異議なく承認された。

賛成18名、反対0名、棄権0名(西谷理事参加)

## 議案第4号 全日本登山大会で参与会を開催しないことの確認について

直近の岐阜県、千葉県でおこなわれた全日本登山大会では実施していない。次回参与会を、正月(新春懇談会)に予定しているなら、それでよいし、当件の可否は、普及委員会で取り扱う必要はないのではないかという意見が出た。

代わりに、3役で慎重に検討し、継続審議することについて、以下のように異議なく承認された。

賛成18名、反対0名、棄権0名

## 議案第5号 大阪府岳連からの申し入れについて

小野寺専務理事が、配布資料を基に説明した。その後、以下の意見が出た。

## 文書の内容について

K氏について言及している内容は、2023年度と混同している模様。総会時に決議され、大阪府岳連会長が知っていることについても言及している。その内容を覆したいのか真意を確認する必要がある。

## 文書の型式について

文書発行の日付がない、専務理事名で出ているなど、正式文書として要件を満たしていない部分があるので、小野寺専務理事から、その内容を発信者に確認する。

## 赤字検証委員会からの理事の責任問題について

赤字検証委員会として理事会の責任を指摘し、その後の監事による検証(弁護士の助言も含む)により法的責任者(善管注意義務違反)を六名としたが、交渉の結果、責任免除議案として総会でも承認された。これが総てだが、あえて付言すれば、理事会等での限られた時間と情報しかない中で、全ての理事にも一定の責任はあるにしろ、過重な責任を取らせることには無理がある。理事会メンバーにはあくまで自発的な基金協力という形で責任の一端を取ってもらうしかないと思料する。

## 当申し入れ(各要望事項)に対しての対応について

6つの要望項目に対して一つずつ返答が必要。総会で正会員が決議したことは、その旨返答する。要望項目によっては、来年とかの対応になるものがある。

(例：懲罰規程等来年総会までに準備するなど)。誰が検討する人か、時期をどうするかを決め、12月中には、内容を固めて目途を立てることが必要である。

上記を踏まえたうえで、三役で回答を考えるという進め方について決議し、以下のよう

に異議なく承認された。

賛成19名、反対0名、棄権0名  
**議案第6号 2025年度全日本登山大会の開催場所について**(報告第3号議案に関連して追加議案)

来年度の開催場所を兵庫県にする件について、採決を取り、以下のように承認された。

賛成16名、反対0名、棄権0名  
(西谷・島田・濱田理事離席)

7. 報告

**報告第1号 月次報告、キャッシュフローについて**

赤尾事務局長が、画面から説明した。  
キャッシュフロー自体は、前月の試算同様で、令和6年度の予算に対しての執行割合は、7月末の4か月で33%となっている。

**報告第2号 アジア山岳連盟30周年について**

小野寺専務理事が、当イベント開催の経緯と、推進体制、海外からの入国者対応状況、最終的に合計220ー230名が祝賀会に参加した旨を説明した。尚、関係者内で、意見のすれ違いがあり、JMSCAの対応が不十分ではないかというような指摘があり、その後、そのメールが紹介された。

当件は、JMSCA内で経緯を確認、反省し、関係団体に、謝罪したほうが良い部分もあるので、蛭田会長帰国後に、三役会議で対応を相談予定。

**報告第3号 全日本登山大会について**

望月理事が、出席予定状況を説明した。理事は、蛭田会長、古賀・吉田副会長、小野寺専務理事、前田・望月理事)の出席は確定しているが、あと30名ほど枠があり、8/20ま

でに参加人数等確定の予定。その他理事の参加は、望月理事へ8/15までに報告する。

**報告第4号 専務理事の給料減額について**

小野寺専務理事が説明した。総会では、反対意見もなかったもので、承認されている。

**報告第5号 正会員・理事の徴収について**

小野寺専務理事が、昨年同様、岳連推薦正会員50,000円、学識経験推薦理事10,000円を請求予定であることを報告した。

**報告第6号 役員賠償責任保険費用の一部負担について**

小野寺専務理事が、5億円の保険にはいつているが、理事、監事25名に、各自3,000円の負担をお願いすることを伝達した。

**報告第7号 山の日協議会体制について**

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

**報告第8号 UIAA総会について**(12月8,9日開催予定)

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。今回の総会は、選挙の見込み。本来ならば、マネージメントコミッティーにJMSCAから入った方が良いが、当面JMSCA内で候補者がいない状況。

**報告第9号 共済委員会委員リスト、資格審査委員会について**

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。共済委員会にSC部からメンバーを入れることを常務理事会で協議した。

濱田理事は、オブザーバーとなり、担当理事から外れることとなった。

資格審査委員会は、SCの各委員会からの代表メンバーと、ガバナンス委員会から小野寺委員長、赤尾副委員長が参加することが、常務理事会で決まり、その旨伝達した。

**報告第10号 JSC補助金頼末書について**

赤尾事務局長が配布資料をもとに説明し、その後以下の意見が出た。

当件は、委員会の主管理事が予算と、実収支を仕切る責任者なので、事務局だけでは

なく、委員会の問題ではないか。

委員会によって、委員会と事務局のお金のやり取り、分担がバラバラなので、一度整理をし、役割を明確にした方が良い。

そのためにも、事務局分掌表を作成し、それをベースに、常務理事会で今後協議することになったことが伝達された。

**報告第11号 役員派遣について**

配布資料を見ていただき、過不足があれば事務局あて連絡する。

8. その他

国スポは、奈良県香芝市で実施することが決まった。

理事会の内容を早くメールで知りたいという声(議案と、何が決まったか等)が、岳連の会長から出ている。

今回、以下の3点が協議されておらず、積み残しになっている。

a. 旧理事の責任問題について(懲罰委員会、倫理規程、処分規程等に基づく処分など)

b. 月報のデジタル化

c. 理事会報告について

上記については、理事会全体で、前向きに対応していくことを確認した。

**業務委託契約の更新状況について**

a. 百瀬、藤枝氏の業務委託

すでに、更新済。年度報告書は提示されたので、関係者に伝達する。もう少し短い期間での報告が良いのではということになっている。

b. 原田氏の業務委託

4ー6月の原契約は、7ー9月まで契約が自動更新されている。その後の契約は、業務移行状況により、条件等を検討する予定。

以上  
令和6年8月8日 記録 赤尾 浩一

寄贈図書

|                    |                                                                              |     |                         |                                    |     |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------------------|------------------------------------|-----|
| 弁護士 溝手 康史          | 「登山道を誰が管理するのか」                                                               | 寄贈本 | 中華民国山岳協会                | 「中華山岳」季刊 296                       | 会報  |
| 日本山岳文化学会           | 「日本山岳文化学会論集」第21号 2024年3月、<br>「山岳文化」2024年 第25号                                | 情報誌 | (株)山と溪谷社                | 「山小屋24時間滞在記」                       | 寄贈本 |
| 兵庫県山岳連盟            | 兵庫県山岳 第684号                                                                  | 会報  | 日本ヒマラヤ協会                | HIMALAYA No.509                    | 情報誌 |
| (株)日本運動具新報社        | 「スポーツ産業新報」第2435号、第2436号、第2437号、第2438号、<br>第2439号、第2440号、第2441号、第2442号、第2443号 | 新聞  | (株)ネイチュアエンタープライズ        | 「岳人」2024 August No.926、No.926      | 寄贈本 |
| (株)山と溪谷社           | 「10万年の噴火史からひもとく富士山」                                                          | 寄贈本 | (株)山と溪谷社                | 「41人の嵐 台風10号と両俣小屋全登山者生還の一記録」       | 寄贈本 |
| (公財)健康・体力づくり事業財団   | 「健康づくり」No.554、No.555、No.556                                                  | 会報  | (株)山と溪谷社                | 「山と溪谷」2024 8月号 No.1081、9月号 No.1082 | 情報誌 |
| (公社)日本武術太極拳連盟      | 「武術太極拳」No.412、No.413、No.414                                                  | 会報  | 市立大町山岳博物館               | 「山と博物館」2024夏号第69巻2号                | 会報  |
| 長野県山岳協会            | 「やまなみ」No.253                                                                 | 会報  | 新潟県山岳協会                 | 「新山協ニュース」第373号                     | 会報  |
| (株)山と溪谷社           | ROCK & SNOW No.104、<br>「山と溪谷」2024 7月号 No.1080、<br>2024パリ五輪スポーツライミング観戦ガイド     | 情報誌 | (公財)全国高等学校体育連盟          | 全国高体連ジャーナル 2024 Vol.47             | 会報  |
| 東京野歩路会             | 「山嶺」Vol.101 No.1132、No.1133、No.1134                                          | 会報  | 明治大学山岳部炉辺会              | 炉辺通信 No.205                        | 会報  |
| (公社)日本山岳会          | 「山」2024年(令和6年)6月号 No.949、7月号 No.950、8月号 No.951                               | 会報  | おいらく山岳会                 | 山行手帖 No.776.'24.8、No.777.'24.9     | 会報  |
| Corean Alpine Club | 「산(山)」2024年4月号 Vol.285号                                                      | 会報  | Korea Alpine Federation | 「산악 연감」Vol.22(山岳年鑑)                | 寄贈本 |
| 日本トレーニング指導者協会      | JATI 第101号                                                                   | 会報  | 日本勤労者山岳連盟               | 「登山時報」夏号(No.583)                   | 会報  |
| 潮流出版社(株)           | 月間建設潮流 創刊号 vol.1                                                             | 月刊誌 | (公社)ネパール協会              | 会報                                 | 会報  |
| 大阪府立体育会館           | 「季刊 府立体育会館」No.149                                                            | 季刊誌 | 兵庫県山岳連盟                 | 兵庫県山岳 第686号                        | 会報  |
|                    |                                                                              |     | (公財)埼玉県スポーツ協会           | スポーツ埼玉 Sports 2024夏号 Vol.303       | 会報  |
|                    |                                                                              |     | 衛藤征士郎事務所                | Early Bird Seminar 案内              | 寄贈本 |



新規会員登録はこちらへ

山で学んで、山を知ろう

## 無料JMSCA (ジムスカ)フレンド 新規会員を募集中です!

初めて山に登る人も山のエキスパートを目指す人も、JMSCAに集まれ!

 JMSCAとは、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会で山のエキスパート集団です。

### JMSCAフレンドで学べることや知れること

- ① 全国のJMSCA 組織で開催する安全登山講習会
- ② 各種資格の取得
  - ・ JMSCA および UIAA (国際山岳連盟) 公認夏山リーダー
  - ・ 日本スポーツ協会公認コーチ 1、2、3、4
  - ・ 自然保護指導員
- ③ 登山道の整備や自然保護活動
- ④ エキスパート登山家による体験記講座参加案内
- ⑤ スポーツクライミング競技会の開催情報
- ⑥ SKIMO (山岳スキー) の競技会・イベント開催情報
- ⑦ マイページより、登山歴を簡単に記録することができます。

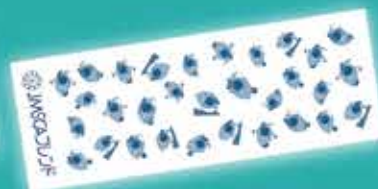
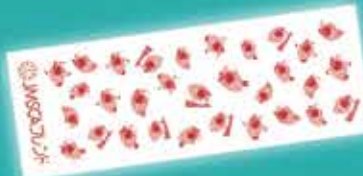


JMSCA 加盟団体の皆様は、所属する都道府県山岳連盟(協会)のデジタル会員証を表示できます。

JMSCA 開催イベントで

**オリジナル手拭い**

特定数限定のお試しプレゼント



かすみちゃんのハイキング日記



## 表紙のこぼ



### 「冬の荒島岳を臨む」

昨今の登山ブームで冬でも登山者が数多く訪れるようになった福井県唯一の日本100名山の荒島岳。その山容をちょっと変わった角度（南西側から）で臨むため、冬限定の静かなコースでアプローチしました。

福井山岳会 長井浩太郎

## 編集後記

今年の夏は非常に暑かったので、ファン付きベストを試してみました。結論としては、個人的には良かったと思いますが、同行者から「ドローンがいる」と言われてしまいました。購入する際に気を付けるべき点としては、静音タイプを選ぶこと、ファンの位置がザックの背負う位置と重ならないものを選ぶこと、バッテリーの容量が大きいほど重くなること、そして生活防水があると便利だと思います。調べたところ、モンベルでも販売しており、山歩き用に工夫がされていました。快適な登山を目指して進化していますね。（松本光順）

### 登山月報 第666号

定価 110円（送料別）  
 予約年間 1,300円（送料共）  
 （毎月1回15日発行）  
 発行日 令和6年9月15日  
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
 Japan Sport Olympic Square 807  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会  
 電話 03-5843-1631  
 F A X 03-5843-1635

〔山岳雑誌〕山と人、時代をつなぐ

岳人

10月号

特別  
編集

# 秋山 2024

紅葉の絶景を楽しむ

モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中！

価格 1,100円（税込）



## ▶年間購読が断然おトクです！

年間購読  
通常特典

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

さらに

モンベル  
クラブ  
会員さまには

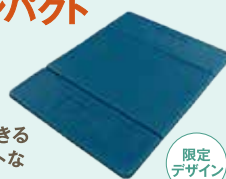
モンベルポイント

5,000P プレゼント！

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、  
 次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

岳人コンパクト  
フォーム  
パッド

手軽に携行できる  
 軽量コンパクトな  
 パッドです。



限定  
デザイン

## 年間購読特典

岳人  
カード

全国2,000ヵ所以上で  
 ご優待！

全国の温泉や山小屋など提携施設で  
 さまざまなご優待が受けられるカードです。



年間購読のお申し込みはこちらから！

<https://www.gakujin.jp/>



全国の  
 モンベルストア  
 でも受付中！

お問い合わせ  
 モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

| 持続可能な地球環境    |                                                                                                   | 安心して暮らせる社会                                               |                                                                                           | 活力のある経済活動                                                |                                                                                                 |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関連する主なSDGs   | 主な取組                                                                                              | 関連する主なSDGs                                               | 主な取組                                                                                      | 関連する主なSDGs                                               | 主な取組                                                                                            |
| <br><br><br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul> | <br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul> | <br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br><br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等）</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul> |

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



# 日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、  
山岳保険は義務。**

**ご自身のために、ご家族のために。**

## 日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

## 2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課  
(2023年6月9日)

|          |                            |
|----------|----------------------------|
| 発生件数     | <b>3,015</b> 件(前年対比 380件増) |
| 遭難者数     | <b>3,508</b> 人(前年対比 431人増) |
| 死者・行方不明者 | <b>327</b> 人(前年対比 44人増)    |



2024年版

日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます( [www.sangakukyousai.jp](http://www.sangakukyousai.jp) )

